

教科 No.	6a040	授業科目	和声法初級1：和声法基礎	単位数	1単位																
担当教員	前田守一（音楽棟312）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻1回生																	
<p>【授業目標】 和音の基礎的な連結を学び、和声の基礎的な流れを修得する。</p> <p>【授業概要】 2つの三和音の4声体での連結の方法を、それぞれの和音毎に実習する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 和音構成音と和音外音（非和声音）について</td> <td>9. " (4) I→Ⅵの連結</td> </tr> <tr> <td>2. 和声法を学ぶにあたって</td> <td>10. Ⅳ度和音（1）Ⅳ→Ⅴの連結</td> </tr> <tr> <td>3. Ⅴ度和音（1）Ⅴ→Ⅰの連結</td> <td>11. " (2) Ⅳ→Ⅰの連結</td> </tr> <tr> <td>4. " (2) "</td> <td>12. " (3) Ⅳ→Ⅱの連結</td> </tr> <tr> <td>5. " (3) Ⅴ→Ⅵの連結</td> <td>13. Ⅱ度和音 Ⅱ→Ⅴの連結</td> </tr> <tr> <td>6. Ⅰ度和音（1）Ⅰ→Ⅴの連結</td> <td>14. Ⅳ度和音 Ⅵ→Ⅳの連結 Ⅵ→Ⅱの連結</td> </tr> <tr> <td>7. " (2) Ⅰ→Ⅳの連結</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. " (3) Ⅰ→Ⅱの連結</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験による評価とします。</p> <p>【履修上の注意】 毎回の積み重ねが大切なので、できるだけ欠席は避けること。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 池内友次郎「和音構成音（1）」（音楽之友社）</p> <p>※備考2回生以上で履修する『音楽理論関係科目』（和声法中級・上級、楽曲分析、対位法、作曲法、管弦楽法）は、1回生で「和声法初級1・2」の単位を修得できなかった場合には履修することができないので、「和声法初級」については、単位を落とすことのないよう特に注意して履修すること。</p>						1. 和音構成音と和音外音（非和声音）について	9. " (4) I→Ⅵの連結	2. 和声法を学ぶにあたって	10. Ⅳ度和音（1）Ⅳ→Ⅴの連結	3. Ⅴ度和音（1）Ⅴ→Ⅰの連結	11. " (2) Ⅳ→Ⅰの連結	4. " (2) "	12. " (3) Ⅳ→Ⅱの連結	5. " (3) Ⅴ→Ⅵの連結	13. Ⅱ度和音 Ⅱ→Ⅴの連結	6. Ⅰ度和音（1）Ⅰ→Ⅴの連結	14. Ⅳ度和音 Ⅵ→Ⅳの連結 Ⅵ→Ⅱの連結	7. " (2) Ⅰ→Ⅳの連結	15. まとめ	8. " (3) Ⅰ→Ⅱの連結	
1. 和音構成音と和音外音（非和声音）について	9. " (4) I→Ⅵの連結																				
2. 和声法を学ぶにあたって	10. Ⅳ度和音（1）Ⅳ→Ⅴの連結																				
3. Ⅴ度和音（1）Ⅴ→Ⅰの連結	11. " (2) Ⅳ→Ⅰの連結																				
4. " (2) "	12. " (3) Ⅳ→Ⅱの連結																				
5. " (3) Ⅴ→Ⅵの連結	13. Ⅱ度和音 Ⅱ→Ⅴの連結																				
6. Ⅰ度和音（1）Ⅰ→Ⅴの連結	14. Ⅳ度和音 Ⅵ→Ⅳの連結 Ⅵ→Ⅱの連結																				
7. " (2) Ⅰ→Ⅳの連結	15. まとめ																				
8. " (3) Ⅰ→Ⅱの連結																					

教科 No.	6a041	授業科目	和声法初級2：和声法基礎	単位数	1単位																
担当教員	前田守一（音楽棟312）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：和声法初級1 ★備考必読		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻1回生																	
<p>【授業目標】 「和声法初級1」の内容に加え、第二回転形の自然な連結、及び属和音の中心となるV₇の和音の設定連結を修得する。</p> <p>【授業概要】 8～12小節程度の終止を含む和声課題を実施する。進度に伴い、一部の三和音の第二回転形とV₇の和音を組み入れて行く。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 終止について</td> <td>9. V₇の和音及びV₇の和音を含む和声課題実施（1）</td> </tr> <tr> <td>2. 終止を含む和声課題について</td> <td>10. " (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 終止を含む和声課題実施（1）</td> <td>11. " (3)</td> </tr> <tr> <td>4. " (2)</td> <td>12. " (4)</td> </tr> <tr> <td>5. " (3)</td> <td>13. まとめ（和声課題実施）（1）</td> </tr> <tr> <td>6. I₄[♯] V₅[♯]を含む和声課題実施</td> <td>14. " (2)</td> </tr> <tr> <td>7. IV₄[♯]を含む和声課題実施</td> <td>15. " (3)</td> </tr> <tr> <td>8. V₄[♯]を含む和声課題実施</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験による評価とします。</p> <p>【履修上の注意】 毎回の積み重ねが大切なので、できるだけ欠席は避けること。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 池内友次郎「和音構成音（1）」「和音構成音（2）」（音楽之友社）</p> <p>※備考2回生以上で履修する『音楽理論関係科目』（和声法中級・上級、楽曲分析、対位法、作曲法、管弦楽法）は、1回生で「和声法初級1・2」の単位を修得できなかった場合には履修することができないので、「和声法初級」については、単位を落とすことのないよう特に注意して履修すること。</p> <p>★担当教員が毎年変わるため、前年度までに後期「和声法初級2」の単位を落として今年度の再履修する場合には、前期「和声法初級1」についても「聴講」することが必要。前期の出席がない場合には、後期の単位は認定されない。</p>						1. 終止について	9. V ₇ の和音及びV ₇ の和音を含む和声課題実施（1）	2. 終止を含む和声課題について	10. " (2)	3. 終止を含む和声課題実施（1）	11. " (3)	4. " (2)	12. " (4)	5. " (3)	13. まとめ（和声課題実施）（1）	6. I ₄ [♯] V ₅ [♯] を含む和声課題実施	14. " (2)	7. IV ₄ [♯] を含む和声課題実施	15. " (3)	8. V ₄ [♯] を含む和声課題実施	
1. 終止について	9. V ₇ の和音及びV ₇ の和音を含む和声課題実施（1）																				
2. 終止を含む和声課題について	10. " (2)																				
3. 終止を含む和声課題実施（1）	11. " (3)																				
4. " (2)	12. " (4)																				
5. " (3)	13. まとめ（和声課題実施）（1）																				
6. I ₄ [♯] V ₅ [♯] を含む和声課題実施	14. " (2)																				
7. IV ₄ [♯] を含む和声課題実施	15. " (3)																				
8. V ₄ [♯] を含む和声課題実施																					

教科 No.	6a042	授業科目	和声法中級 1		単位数	1単位																
担当教員	植松さやか（非常勤）				開講学期	前期																
履修条件	和声法初級 1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 2 回生以上																		
<p>【授業目標】 V₉ の和音と II₇、IV₇ の和音を学ぶ。</p> <p>【授業概要】 和音について学び、和声課題を実施する。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. V₉ の和音について、及び V₉ の和音を含む和声課題実施</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. IV₇ の和音について、及び IV₇ の和音を含む和声課題実施</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>7. II₇ の和音について、及び II₇ の和音を含む和声課題実施</td> <td>15. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験および受講態度により評価する。</p> <p>【履修上の注意】 毎回の授業での解説が主体となるため、欠席をしないこと。</p> <p>【教科書】 必要時に指示する。</p> <p>【参考書等】 特に指定しない。</p>							1. V ₉ の和音について、及び V ₉ の和音を含む和声課題実施	9. "	2. "	10. IV ₇ の和音について、及び IV ₇ の和音を含む和声課題実施	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. まとめ（和声課題実施）	6. "	14. まとめ（和声課題実施）	7. II ₇ の和音について、及び II ₇ の和音を含む和声課題実施	15. まとめ（和声課題実施）	8. "	
1. V ₉ の和音について、及び V ₉ の和音を含む和声課題実施	9. "																					
2. "	10. IV ₇ の和音について、及び IV ₇ の和音を含む和声課題実施																					
3. "	11. "																					
4. "	12. "																					
5. "	13. まとめ（和声課題実施）																					
6. "	14. まとめ（和声課題実施）																					
7. II ₇ の和音について、及び II ₇ の和音を含む和声課題実施	15. まとめ（和声課題実施）																					
8. "																						

教科 No.	6a043	授業科目	和声法中級 2		単位数	1単位																
担当教員	植松さやか（非常勤）				開講学期	後期																
履修条件	和声法中級 1 ★備考必読		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 2 回生以上																		
<p>【授業目標】 臨時記号を持つ和音（借用和音）を用い、上級で学ぶ「転調」へと結びつける。</p> <p>【授業概要】 和音について学び、和声課題を実施する。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 前期の復習</td> <td style="width: 50%;">9. その他の七の和音、その他の借用和音、ゼクエントについて、及びそれらを含む和声課題実施</td> </tr> <tr> <td>2. ドッペル・ドミナントについて、及びドッペル・ドミナントを含む和声課題実施</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>7. ドリアの IV 度の和音、ナポリの II 度の和音について、及びそれらを含む和声課題実施</td> <td>15. まとめ（和声課題実施）</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験および受講態度により評価する。</p> <p>【履修上の注意】 毎回の授業での解説が主体となるため、欠席をしないこと。</p> <p>【教科書】 必要時に指示する。</p> <p>【参考書等】 特に指定しない。</p> <p>備考 ★担当教員が毎年変わるため、前年度までに後期「和声法中級 2」の単位を落として今年度の再履修する場合には、前期「和声法中級 1」についても「聴講」することが必要。前期の出席がない場合には、後期の単位は認定されない。</p>							1. 前期の復習	9. その他の七の和音、その他の借用和音、ゼクエントについて、及びそれらを含む和声課題実施	2. ドッペル・ドミナントについて、及びドッペル・ドミナントを含む和声課題実施	10. "	3. "	11. まとめ（和声課題実施）	4. "	12. まとめ（和声課題実施）	5. "	13. まとめ（和声課題実施）	6. "	14. まとめ（和声課題実施）	7. ドリアの IV 度の和音、ナポリの II 度の和音について、及びそれらを含む和声課題実施	15. まとめ（和声課題実施）	8. "	
1. 前期の復習	9. その他の七の和音、その他の借用和音、ゼクエントについて、及びそれらを含む和声課題実施																					
2. ドッペル・ドミナントについて、及びドッペル・ドミナントを含む和声課題実施	10. "																					
3. "	11. まとめ（和声課題実施）																					
4. "	12. まとめ（和声課題実施）																					
5. "	13. まとめ（和声課題実施）																					
6. "	14. まとめ（和声課題実施）																					
7. ドリアの IV 度の和音、ナポリの II 度の和音について、及びそれらを含む和声課題実施	15. まとめ（和声課題実施）																					
8. "																						

教科 No.	6a044	授業科目	和声法上級 1		単位数	1単位																
担当教員	和泉耕二（非常勤）				開講学期	前期																
履修条件	先修科目：和声法中級 1, 2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 3 回生以上																		
<p>【授業目標】 和声法中級 1, 2 で学んだ内容を元に、更に高度な内容を含む課題実施の能力を高めて行く。</p> <p>【授業概要】 和音外音（非和声音）を含む近親転調の課題の実施を主に行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 低音課題の実習を行う。①</td> <td>9. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。①</td> </tr> <tr> <td>2. 低音課題の実習を行う。②</td> <td>10. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。②</td> </tr> <tr> <td>3. 低音課題の実習を行う。③</td> <td>11. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。③</td> </tr> <tr> <td>4. 低音課題の実習を行う。④</td> <td>12. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。④</td> </tr> <tr> <td>5. 旋律課題の実習を行う。①</td> <td>13. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑤</td> </tr> <tr> <td>6. 旋律課題の実習を行う。②</td> <td>14. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑥</td> </tr> <tr> <td>7. 旋律課題の実習を行う。③</td> <td>15. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑦</td> </tr> <tr> <td>8. 旋律課題の実習を行う。④</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 受講姿勢 20% 出席 30% 試験 50%</p> <p>【履修上の注意】 継続して課題の実施に取り組むことが大切なので、持続的に出席することを心掛けること。</p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考書等】 なし。</p>							1. 低音課題の実習を行う。①	9. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。①	2. 低音課題の実習を行う。②	10. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。②	3. 低音課題の実習を行う。③	11. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。③	4. 低音課題の実習を行う。④	12. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。④	5. 旋律課題の実習を行う。①	13. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑤	6. 旋律課題の実習を行う。②	14. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑥	7. 旋律課題の実習を行う。③	15. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑦	8. 旋律課題の実習を行う。④	
1. 低音課題の実習を行う。①	9. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。①																					
2. 低音課題の実習を行う。②	10. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。②																					
3. 低音課題の実習を行う。③	11. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。③																					
4. 低音課題の実習を行う。④	12. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。④																					
5. 旋律課題の実習を行う。①	13. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑤																					
6. 旋律課題の実習を行う。②	14. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑥																					
7. 旋律課題の実習を行う。③	15. まとめ。授業の進度により異名同音を含む転調課題の実習を行う。⑦																					
8. 旋律課題の実習を行う。④																						

教科 No.	6a045	授業科目	和声法上級 2		単位数	1単位																
担当教員	和泉耕二（非常勤）				開講学期	後期																
履修条件	先修科目：和声法上級 1 ★備考必読		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 3 回生以上																		
<p>【授業目標】 さまざまな内容の課題の実習を通して、洗練された和音感覚や和声関連の応用力を養う。</p> <p>【授業概要】 「和声法上級 1」に引き続き、遠隔転調を含むなど更に高度な課題の実習を行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 低音課題の実習を行う。①</td> <td>9. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。①</td> </tr> <tr> <td>2. 低音課題の実習を行う。②</td> <td>10. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。②</td> </tr> <tr> <td>3. 低音課題の実習を行う。③</td> <td>11. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。③</td> </tr> <tr> <td>4. 低音課題の実習を行う。④</td> <td>12. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。④</td> </tr> <tr> <td>5. 旋律課題の実習を行う。①</td> <td>13. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑤</td> </tr> <tr> <td>6. 旋律課題の実習を行う。②</td> <td>14. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑥</td> </tr> <tr> <td>7. 旋律課題の実習を行う。③</td> <td>15. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑦</td> </tr> <tr> <td>8. 旋律課題の実習を行う。④</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 受講姿勢 20% 出席 30% 試験 50%</p> <p>【履修上の注意】 継続して課題の実施に取り組むことが大切なので、持続的に出席することを心掛けること。</p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考書等】 なし。</p> <p>備考 ★担当教員が毎年変わるため、前年度までに後期「和声法上級 2」の単位を落として今年度の再履修修める場合には、前期「和声法上級 1」についても「聴講」することが必要。</p>							1. 低音課題の実習を行う。①	9. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。①	2. 低音課題の実習を行う。②	10. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。②	3. 低音課題の実習を行う。③	11. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。③	4. 低音課題の実習を行う。④	12. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。④	5. 旋律課題の実習を行う。①	13. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑤	6. 旋律課題の実習を行う。②	14. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑥	7. 旋律課題の実習を行う。③	15. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑦	8. 旋律課題の実習を行う。④	
1. 低音課題の実習を行う。①	9. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。①																					
2. 低音課題の実習を行う。②	10. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。②																					
3. 低音課題の実習を行う。③	11. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。③																					
4. 低音課題の実習を行う。④	12. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。④																					
5. 旋律課題の実習を行う。①	13. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑤																					
6. 旋律課題の実習を行う。②	14. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑥																					
7. 旋律課題の実習を行う。③	15. まとめ。授業の進度により主題性を持った低音課題の実習他を加える。⑦																					
8. 旋律課題の実習を行う。④																						

教科 No.	6a046	授業科目	楽曲分析Ⅰ a		単位数	1単位																
担当教員	中村典子（音楽棟213）				開講学期	前期																
履修条件	和声法初級1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻2回生以上																		
<p>【授業目標】 楽曲の構造を完全に掌握するために必要な、音楽を構成的に捉える力「分析的思考」を日常のものとして身に付ける。</p> <p>【授業概要】 今回は、J.S. バッハ作曲「二つのヴァイオリンのための協奏曲」全楽章およびバッハ、ヘンデルを始め退位法的楽曲の緻密な分析を通じ、各々の「分析する能力」の向上に資するよう授業を進める。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 楽曲分析について</td> <td>9. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第3楽章の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 諸形式の分析 (1)</td> <td>10. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 諸形式の分析 (2)</td> <td>11. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第1楽章の分析 (1)</td> <td>12. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第1楽章の分析 (2)</td> <td>13. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第2楽章の分析 (1)</td> <td>14. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (5)</td> </tr> <tr> <td>7. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第2楽章の分析 (2)</td> <td>15. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (6)</td> </tr> <tr> <td>8. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第3楽章の分析 (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験（あるいはレポート提出）、出席状況により総合評価する。</p> <p>【履修上の注意】 毎週の分析を通し楽曲研究を完成させてゆくため、出席を重要視する。</p> <p>【教科書】 J.S. バッハ「二つのヴァイオリンのための協奏曲」「平均律クラヴィーア曲集」（出版社を問わず）</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜、参考文献及び楽譜等を紹介する。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 楽曲分析について	9. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第3楽章の分析 (2)	2. 諸形式の分析 (1)	10. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (1)	3. 諸形式の分析 (2)	11. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (2)	4. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第1楽章の分析 (1)	12. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (3)	5. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第1楽章の分析 (2)	13. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (4)	6. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第2楽章の分析 (1)	14. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (5)	7. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第2楽章の分析 (2)	15. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (6)	8. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第3楽章の分析 (1)	
1. 楽曲分析について	9. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第3楽章の分析 (2)																					
2. 諸形式の分析 (1)	10. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (1)																					
3. 諸形式の分析 (2)	11. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (2)																					
4. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第1楽章の分析 (1)	12. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (3)																					
5. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第1楽章の分析 (2)	13. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (4)																					
6. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第2楽章の分析 (1)	14. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (5)																					
7. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第2楽章の分析 (2)	15. J.S. バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集の分析 (6)																					
8. J.S. バッハ作曲 二つのヴァイオリンのための協奏曲二短調第3楽章の分析 (1)																						

教科 No.	6a047	授業科目	楽曲分析Ⅱ a		単位数	1単位																
担当教員	中村典子（音楽棟213）				開講学期	後期																
履修条件	先修科目：和声法初級1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻2回生以上																		
<p>【授業目標】 楽曲の構造を完全に掌握するために必要な、音楽を構成的に捉える力「分析的思考」を日常のものとして身に付ける。</p> <p>【授業概要】 今回はフォーレ歌曲集およびフォーレ室内楽作品の分析を通じ、各々の「分析する能力」の向上に資するよう授業を進める。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 楽曲分析について</td> <td>9. フォーレ室内楽作品の分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. フォーレ歌曲集の分析 (1)</td> <td>10. フォーレ室内楽作品の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. フォーレ歌曲集の分析 (2)</td> <td>11. フォーレ室内楽作品の分析 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. フォーレ歌曲集の分析 (3)</td> <td>12. フォーレ室内楽作品の分析 (4)</td> </tr> <tr> <td>5. フォーレ歌曲集の分析 (4)</td> <td>13. フォーレ室内楽作品の分析 (5)</td> </tr> <tr> <td>6. フォーレ歌曲集の分析 (5)</td> <td>14. フォーレ室内楽作品の分析 (6)</td> </tr> <tr> <td>7. フォーレ歌曲集の分析 (6)</td> <td>15. フォーレ室内楽作品の分析 (7)</td> </tr> <tr> <td>8. フォーレ歌曲集の分析 (7)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験（あるいはレポート提出）、出席状況により総合評価する。</p> <p>【履修上の注意】 毎週の分析を通し楽曲研究を完成させてゆくため、出席を重要視する。</p> <p>【教科書】 フォーレ歌曲集（出版社を問わず）</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜、参考文献及び楽譜等を紹介する。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 楽曲分析について	9. フォーレ室内楽作品の分析 (1)	2. フォーレ歌曲集の分析 (1)	10. フォーレ室内楽作品の分析 (2)	3. フォーレ歌曲集の分析 (2)	11. フォーレ室内楽作品の分析 (3)	4. フォーレ歌曲集の分析 (3)	12. フォーレ室内楽作品の分析 (4)	5. フォーレ歌曲集の分析 (4)	13. フォーレ室内楽作品の分析 (5)	6. フォーレ歌曲集の分析 (5)	14. フォーレ室内楽作品の分析 (6)	7. フォーレ歌曲集の分析 (6)	15. フォーレ室内楽作品の分析 (7)	8. フォーレ歌曲集の分析 (7)	
1. 楽曲分析について	9. フォーレ室内楽作品の分析 (1)																					
2. フォーレ歌曲集の分析 (1)	10. フォーレ室内楽作品の分析 (2)																					
3. フォーレ歌曲集の分析 (2)	11. フォーレ室内楽作品の分析 (3)																					
4. フォーレ歌曲集の分析 (3)	12. フォーレ室内楽作品の分析 (4)																					
5. フォーレ歌曲集の分析 (4)	13. フォーレ室内楽作品の分析 (5)																					
6. フォーレ歌曲集の分析 (5)	14. フォーレ室内楽作品の分析 (6)																					
7. フォーレ歌曲集の分析 (6)	15. フォーレ室内楽作品の分析 (7)																					
8. フォーレ歌曲集の分析 (7)																						

教科 No.	6a048	授業科目	楽曲分析Ⅰ b		単位数	1単位																
担当教員	清水慶彦（非常勤）				開講学期	前期																
履修条件	先修科目：和声法初級1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻2回生以上																		
<p>【授業目標】 対象となる楽曲の分析を通して、音楽作品を分析的に捉えるための思考や方法の基礎を身につける。</p> <p>【授業概要】 ベートーベンの交響曲第7番イ長調 Op.92 の第1楽章ならびに第3楽章について分析を行い、そのことを通じて分析的思考や音楽理論、様式についての知識など、楽曲分析の実践に必要な手法を学んでいく。また、交響曲第7番の分析の前段階として、いくつかのピアノソナタ（ソナタ・アルバム1程度）などを例に、楽曲分析の基礎的な方法について学ぶ。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入：楽曲分析とはなにか</td> <td>9. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (5)</td> </tr> <tr> <td>2. 楽曲分析の基礎 (1)：楽式の基礎、形式分析の方法</td> <td>10. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲分析の基礎 (2)：和声分析の方法</td> <td>11. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 楽曲分析の基礎 (3)：主題分析、動機分析など</td> <td>12. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (1)</td> <td>13. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (2)</td> <td>14. 予備</td> </tr> <tr> <td>7. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (3)</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (4)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験（ないし、レポート提出）に加え、分析その他の課題の取り組み、出席状況など広義での授業への参加度などを総合的に評価。</p> <p>【履修上の注意】 分析を実施していくかたちで授業を進めるため、最低限、楽曲の分析を経験してみたいという意欲が必要。和声法、対位法、楽式など理論面での得手不得手は問わない。</p> <p>【教科書】 ベートーベン：交響曲第7番スコア（全音ポケットスコアなど、普及版で可）。</p> <p>【参考書等】 ソナタ・アルバム第1巻などを用いる予定。詳細は授業中に適宜指示する。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 導入：楽曲分析とはなにか	9. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (5)	2. 楽曲分析の基礎 (1)：楽式の基礎、形式分析の方法	10. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (1)	3. 楽曲分析の基礎 (2)：和声分析の方法	11. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (2)	4. 楽曲分析の基礎 (3)：主題分析、動機分析など	12. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (3)	5. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (1)	13. 全体のまとめ	6. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (2)	14. 予備	7. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (3)	15. 予備	8. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (4)	
1. 導入：楽曲分析とはなにか	9. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (5)																					
2. 楽曲分析の基礎 (1)：楽式の基礎、形式分析の方法	10. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (1)																					
3. 楽曲分析の基礎 (2)：和声分析の方法	11. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (2)																					
4. 楽曲分析の基礎 (3)：主題分析、動機分析など	12. ベートーベン：交響曲第7番第3楽章の分析 (3)																					
5. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (1)	13. 全体のまとめ																					
6. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (2)	14. 予備																					
7. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (3)	15. 予備																					
8. ベートーベン：交響曲第7番第1楽章の分析 (4)																						

教科 No.	6a049	授業科目	楽曲分析Ⅱ b		単位数	1単位																
担当教員	清水慶彦（非常勤）				開講学期	後期																
履修条件	先修科目：和声法初級1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻2回生以上																		
<p>【授業目標】 対象となる楽曲の分析を通して、音楽作品を分析的に捉えるための思考や方法の基礎を身につける。</p> <p>【授業概要】 モーツァルトのクラリネット五重奏曲イ長調 K.V.581、ならびにブラームスのクラリネット五重奏曲短調作品 115 の分析を行い、そのことを通じて分析的思考や音楽理論、様式についての知識など、楽曲分析の実践に必要な手法を学んでいく。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 楽曲分析の基礎 (1)：楽式の基礎、形式分析の方法</td> <td>9. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 楽曲分析の基礎 (2)：和声分析の方法</td> <td>10. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲分析の基礎 (3)：主題分析、動機分析など</td> <td>11. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (1)</td> <td>12. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (5)</td> </tr> <tr> <td>5. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (2)</td> <td>13. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (3)</td> <td>14. 試験を行う予定。</td> </tr> <tr> <td>7. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (4)</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験（ないし、レポート提出）に加え、分析その他の課題の取り組み、出席状況など広義での授業への参加度などを総合的に評価。</p> <p>【履修上の注意】 分析を実施していくかたちで授業を進めるため、最低限、楽曲の分析を経験してみたいという意欲が必要。和声法、対位法、楽式など理論面での得手不得手は問わない。</p> <p>【教科書】 モーツァルト：クラリネット五重奏曲スコア（全音ポケットスコア・オイレンブルグ版）、ブラームス：クラリネット五重奏曲スコア（音楽之友社ポケットスコア）。ただし、両曲とも上記以外の版のものでも可。</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜指示する。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 楽曲分析の基礎 (1)：楽式の基礎、形式分析の方法	9. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (2)	2. 楽曲分析の基礎 (2)：和声分析の方法	10. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (3)	3. 楽曲分析の基礎 (3)：主題分析、動機分析など	11. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (4)	4. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (1)	12. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (5)	5. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (2)	13. 全体のまとめ	6. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (3)	14. 試験を行う予定。	7. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (4)	15. 予備	8. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (1)	
1. 楽曲分析の基礎 (1)：楽式の基礎、形式分析の方法	9. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (2)																					
2. 楽曲分析の基礎 (2)：和声分析の方法	10. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (3)																					
3. 楽曲分析の基礎 (3)：主題分析、動機分析など	11. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (4)																					
4. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (1)	12. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (5)																					
5. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (2)	13. 全体のまとめ																					
6. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (3)	14. 試験を行う予定。																					
7. モーツァルト：クラリネット五重奏曲の分析 (4)	15. 予備																					
8. ブラームス：クラリネット五重奏曲の分析 (1)																						

教科 No.	6a050	授業科目	楽曲分析Ⅰ c		単位数	1単位																
担当教員	山上友佳子（非常勤）				開講学期	前期																
履修条件	先修科目：和声法初級1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻2回生以上																		
<p>【授業目標】 この授業は、曲についての知識を得るというより、楽曲構造の根本的な理解力の向上を目的として、各自の演奏に資するものとした。</p> <p>【授業概要】 バハ時代から今日までの様々な作品の中より、音楽様式の典型となっている楽曲を取り上げ、構造的に解明する。今回は、ベートーヴェン作曲『交響曲第7番イ長調作品92 第2、第4楽章』を中心に、その周辺の楽曲を分析する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 全体の授業計画説明および導入 以下は分析にあたっての細目である。</td> <td>9. 旋律線の分析</td> </tr> <tr> <td>2. 分析にあたっての留意点</td> <td>10. 演奏形態の分析</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲区分とその論拠</td> <td>11. 音型分析</td> </tr> <tr> <td>4. 楽曲構造の理論と相関</td> <td>12. リズム分析</td> </tr> <tr> <td>5. 和声分析</td> <td>13. 曲全体の骨格と細部との関連</td> </tr> <tr> <td>6. 調性分析</td> <td>14. 作品の時代背景についての考察</td> </tr> <tr> <td>7. 音価の分析</td> <td>15. 楽曲分析の総括 西洋音楽における諸形式とその応用</td> </tr> <tr> <td>8. 奏法の分析</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験あるいはレポートおよび平常の授業状況により総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 各回行う分析は関連しているので、出席を重要視する。</p> <p>【教科書】 ベートーヴェン作曲『交響曲第7番イ長調作品92』（出版社を問わず）</p> <p>【参考書等】 必要に応じて、その都度適宜参考文献等を紹介する。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 全体の授業計画説明および導入 以下は分析にあたっての細目である。	9. 旋律線の分析	2. 分析にあたっての留意点	10. 演奏形態の分析	3. 楽曲区分とその論拠	11. 音型分析	4. 楽曲構造の理論と相関	12. リズム分析	5. 和声分析	13. 曲全体の骨格と細部との関連	6. 調性分析	14. 作品の時代背景についての考察	7. 音価の分析	15. 楽曲分析の総括 西洋音楽における諸形式とその応用	8. 奏法の分析	
1. 全体の授業計画説明および導入 以下は分析にあたっての細目である。	9. 旋律線の分析																					
2. 分析にあたっての留意点	10. 演奏形態の分析																					
3. 楽曲区分とその論拠	11. 音型分析																					
4. 楽曲構造の理論と相関	12. リズム分析																					
5. 和声分析	13. 曲全体の骨格と細部との関連																					
6. 調性分析	14. 作品の時代背景についての考察																					
7. 音価の分析	15. 楽曲分析の総括 西洋音楽における諸形式とその応用																					
8. 奏法の分析																						

教科 No.	6a051	授業科目	楽曲分析Ⅱ c		単位数	1単位																
担当教員	山上友佳子（非常勤）				開講学期	後期																
履修条件	和声法初級1, 2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻2回生以上																		
<p>【授業目標】 この授業は、曲についての知識を得るというより、楽曲構造の根本的な理解力の向上を目的として、各自の演奏に資するものとした。</p> <p>【授業概要】 バハ時代から今日までの様々な作品の中より、音楽様式の典型となっている楽曲を取り上げ、構造的に解明する。今回は、メンデルスゾーン作曲『交響曲第4番イ長調「イタリア」作品90』を中心に、その周辺の楽曲を分析する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 全体の授業計画説明および導入 以下は分析にあたっての細目である。</td> <td>9. 旋律線の分析</td> </tr> <tr> <td>2. 分析にあたっての留意点</td> <td>10. 演奏形態の分析</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲区分とその論拠</td> <td>11. 音型分析</td> </tr> <tr> <td>4. 楽曲構造の理論と相関</td> <td>12. リズム分析</td> </tr> <tr> <td>5. 和声分析</td> <td>13. 曲全体の骨格と細部との関連</td> </tr> <tr> <td>6. 調性分析</td> <td>14. 作品の時代背景についての考察</td> </tr> <tr> <td>7. 音価の分析</td> <td>15. 楽曲分析の総括 西洋音楽における諸形式とその応用</td> </tr> <tr> <td>8. 奏法の分析</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験あるいはレポートおよび平常の授業状況により総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 各回行う分析は関連しているので、出席を重要視する。</p> <p>【教科書】 メンデルスゾーン作曲『交響曲第4番イ長調「イタリア」作品90』（出版社を問わず）</p> <p>【参考書等】 必要に応じて、その都度適宜参考文献等を紹介する。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 全体の授業計画説明および導入 以下は分析にあたっての細目である。	9. 旋律線の分析	2. 分析にあたっての留意点	10. 演奏形態の分析	3. 楽曲区分とその論拠	11. 音型分析	4. 楽曲構造の理論と相関	12. リズム分析	5. 和声分析	13. 曲全体の骨格と細部との関連	6. 調性分析	14. 作品の時代背景についての考察	7. 音価の分析	15. 楽曲分析の総括 西洋音楽における諸形式とその応用	8. 奏法の分析	
1. 全体の授業計画説明および導入 以下は分析にあたっての細目である。	9. 旋律線の分析																					
2. 分析にあたっての留意点	10. 演奏形態の分析																					
3. 楽曲区分とその論拠	11. 音型分析																					
4. 楽曲構造の理論と相関	12. リズム分析																					
5. 和声分析	13. 曲全体の骨格と細部との関連																					
6. 調性分析	14. 作品の時代背景についての考察																					
7. 音価の分析	15. 楽曲分析の総括 西洋音楽における諸形式とその応用																					
8. 奏法の分析																						

教科 No.	6a052	授業科目	楽曲分析 1		単位数	1単位																
担当教員	和泉耕二（非常勤）				開講学期	前期																
履修条件	先修科目：和声法初級 1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 2 回生以上																		
<p>【授業目標】 楽曲構造他の究明を通し基礎的分析力を身に付ける。</p> <p>【授業概要】 主として西洋音楽の楽曲について研究する。題材は古典的な楽曲を中心に選び、和声分析や楽曲を成立させている音楽的諸要素の抽出と分析を経てその作品の構造他を究明する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 楽曲分析について</td> <td>9. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析</td> </tr> <tr> <td>2. 和音分析の基礎〈和音記号と和音外音（非和声音）〉</td> <td>10. " (3) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲の基礎的用語と基礎形式</td> <td>11. " (4) 楽曲構造の理解及び総</td> </tr> <tr> <td>4. 変奏曲による楽曲分析（1）和声分析</td> <td>12. まとめ（1）</td> </tr> <tr> <td>5. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析</td> <td>13. まとめ（2）</td> </tr> <tr> <td>6. " (3) 楽曲構造の理解及び総括</td> <td>14. まとめ（3）</td> </tr> <tr> <td>7. " (4) 楽曲構造の理解と総括受講姿勢 20%出席 30%試験 50%</td> <td>15. まとめ（4）</td> </tr> <tr> <td>8. ロンド形式による楽曲分析（1）和声分析</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 受講姿勢 20% 出席 30% 試験 50%</p> <p>【履修上の注意】 和音や和声に対する理解力が必要とされるので注意すること。継続的な出席を求める。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。</p> <p>【参考書等】 特に指定しない。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 楽曲分析について	9. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析	2. 和音分析の基礎〈和音記号と和音外音（非和声音）〉	10. " (3) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析	3. 楽曲の基礎的用語と基礎形式	11. " (4) 楽曲構造の理解及び総	4. 変奏曲による楽曲分析（1）和声分析	12. まとめ（1）	5. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析	13. まとめ（2）	6. " (3) 楽曲構造の理解及び総括	14. まとめ（3）	7. " (4) 楽曲構造の理解と総括受講姿勢 20%出席 30%試験 50%	15. まとめ（4）	8. ロンド形式による楽曲分析（1）和声分析	
1. 楽曲分析について	9. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析																					
2. 和音分析の基礎〈和音記号と和音外音（非和声音）〉	10. " (3) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析																					
3. 楽曲の基礎的用語と基礎形式	11. " (4) 楽曲構造の理解及び総																					
4. 変奏曲による楽曲分析（1）和声分析	12. まとめ（1）																					
5. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析	13. まとめ（2）																					
6. " (3) 楽曲構造の理解及び総括	14. まとめ（3）																					
7. " (4) 楽曲構造の理解と総括受講姿勢 20%出席 30%試験 50%	15. まとめ（4）																					
8. ロンド形式による楽曲分析（1）和声分析																						

教科 No.	6a053	授業科目	楽曲分析 2		単位数	1単位																
担当教員	和泉耕二（非常勤）				開講学期	後期																
履修条件	先修科目：楽曲分析 1（和泉）		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 2 回生以上																		
<p>【授業目標】 楽曲構造他の究明を行うことにより未詳の作品に対して活用しうる分析力を身に付ける。</p> <p>【授業概要】 主として西洋音楽の楽曲について研究する。題材はさまざまな時代様式の中から楽曲を選び、和声分析や楽曲を成立させている音楽的諸要素の抽出と分析を経てその作品の構造他を究明する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 楽曲分析および楽曲の基礎用語と基礎形式について</td> <td>9. " (4) 総括（1）</td> </tr> <tr> <td>2. ソナタ形式による楽曲（1）和声分析と諸要素の抽出と分析</td> <td>10. " (5) 総括（2）</td> </tr> <tr> <td>3. " (2) "</td> <td>11. フーガによる作品の考察(1)</td> </tr> <tr> <td>4. " (3) "</td> <td>12. フーガによる作品の考察(2)</td> </tr> <tr> <td>5. " (4) 楽曲構造の理解及び総括</td> <td>13. まとめ（1）</td> </tr> <tr> <td>6. ロマン派または近代の作品から一曲選びその楽曲分析（1）和声分析と諸要素の抽出と分析</td> <td>14. まとめ（2）</td> </tr> <tr> <td>7. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析</td> <td>15. まとめ（3）</td> </tr> <tr> <td>8. " (3) 楽曲構造の理解</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 受講姿勢 20% 出席 30% 試験 50%</p> <p>【履修上の注意】 和音や和声に対する理解力が必要とされるので注意すること。継続的な出席を求める。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。</p> <p>【参考書等】 特に指定しない。</p> <p>※備考 「楽曲分析」は毎年授業内容が変わるので、重複履修することが可能である。</p>							1. 楽曲分析および楽曲の基礎用語と基礎形式について	9. " (4) 総括（1）	2. ソナタ形式による楽曲（1）和声分析と諸要素の抽出と分析	10. " (5) 総括（2）	3. " (2) "	11. フーガによる作品の考察(1)	4. " (3) "	12. フーガによる作品の考察(2)	5. " (4) 楽曲構造の理解及び総括	13. まとめ（1）	6. ロマン派または近代の作品から一曲選びその楽曲分析（1）和声分析と諸要素の抽出と分析	14. まとめ（2）	7. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析	15. まとめ（3）	8. " (3) 楽曲構造の理解	
1. 楽曲分析および楽曲の基礎用語と基礎形式について	9. " (4) 総括（1）																					
2. ソナタ形式による楽曲（1）和声分析と諸要素の抽出と分析	10. " (5) 総括（2）																					
3. " (2) "	11. フーガによる作品の考察(1)																					
4. " (3) "	12. フーガによる作品の考察(2)																					
5. " (4) 楽曲構造の理解及び総括	13. まとめ（1）																					
6. ロマン派または近代の作品から一曲選びその楽曲分析（1）和声分析と諸要素の抽出と分析	14. まとめ（2）																					
7. " (2) 楽曲を成立させている諸要素の抽出と分析	15. まとめ（3）																					
8. " (3) 楽曲構造の理解																						

教科 No.	6a054	授業科目	対位法 1		単位数	1単位																
担当教員	和泉耕二（非常勤）				開講学期	前期																
履修条件	先修科目：和声法初級 1・2		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 2 回生以上																		
<p>【授業目標】 全音符の定旋律に対し、一つの対旋律を作る。その作業を通して良い旋律とは何かや対位法的発想についても学ぶ。</p> <p>【授業概要】 二声対位法の実習を行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 対位法を学ぶにあたって（導入）①</td> <td>9. 4分音符による対旋律の実習③</td> </tr> <tr> <td>2. 2分音符による対旋律の実習①</td> <td>10. 4分音符による対旋律の実習④</td> </tr> <tr> <td>3. 2分音符による対旋律の実習②</td> <td>11. 4分音符による対旋律の実習⑤</td> </tr> <tr> <td>4. 2分音符による対旋律の実習③</td> <td>12. まとめ①</td> </tr> <tr> <td>5. 2分音符による対旋律の実習④</td> <td>13. まとめ②</td> </tr> <tr> <td>6. 2分音符による対旋律の実習⑤</td> <td>14. まとめ③</td> </tr> <tr> <td>7. 4分音符による対旋律の実習①</td> <td>15. まとめ④</td> </tr> <tr> <td>8. 4分音符による対旋律の実習②</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 受講姿勢 20% 出席 30% 試験 50%</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 池内友次郎『二声対位法』（音楽之友社）</p> <p>【参考書等】 なし。</p>							1. 対位法を学ぶにあたって（導入）①	9. 4分音符による対旋律の実習③	2. 2分音符による対旋律の実習①	10. 4分音符による対旋律の実習④	3. 2分音符による対旋律の実習②	11. 4分音符による対旋律の実習⑤	4. 2分音符による対旋律の実習③	12. まとめ①	5. 2分音符による対旋律の実習④	13. まとめ②	6. 2分音符による対旋律の実習⑤	14. まとめ③	7. 4分音符による対旋律の実習①	15. まとめ④	8. 4分音符による対旋律の実習②	
1. 対位法を学ぶにあたって（導入）①	9. 4分音符による対旋律の実習③																					
2. 2分音符による対旋律の実習①	10. 4分音符による対旋律の実習④																					
3. 2分音符による対旋律の実習②	11. 4分音符による対旋律の実習⑤																					
4. 2分音符による対旋律の実習③	12. まとめ①																					
5. 2分音符による対旋律の実習④	13. まとめ②																					
6. 2分音符による対旋律の実習⑤	14. まとめ③																					
7. 4分音符による対旋律の実習①	15. まとめ④																					
8. 4分音符による対旋律の実習②																						

教科 No.	6a055	授業科目	対位法 2		単位数	1単位																
担当教員	和泉耕二（非常勤）				開講学期	後期																
履修条件	先修科目：対位法 1 ★備考必読		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 2 回生以上																		
<p>【授業目標】 全音符の定旋律に対し、一つの対旋律を作る。その作業を通して良い旋律とは何かや対位法的発想についても学ぶ。</p> <p>【授業概要】 二声対位法の実習を行う</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習①</td> <td>9. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習④</td> </tr> <tr> <td>2. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習②</td> <td>10. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習③</td> <td>11. 対位法実作①</td> </tr> <tr> <td>4. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習④</td> <td>12. 対位法実作②</td> </tr> <tr> <td>5. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習⑤</td> <td>13. 対位法実作③</td> </tr> <tr> <td>6. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習①</td> <td>14. まとめ①</td> </tr> <tr> <td>7. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習②</td> <td>15. まとめ②</td> </tr> <tr> <td>8. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習③</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 受講姿勢 20% 出席 30% 試験 50%</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 池内友次郎『二声対位法』（音楽之友社）</p> <p>【参考書等】 なし。</p> <p>※備考 ★前年度までに後期「対位法 2」の単位を落として今年度にも履修する場合には、前期「対位法 1」についても「聴講」することが必要。前期の出席がない場合には、後期の単位は認定されない。</p>							1. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習①	9. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習④	2. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習②	10. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習⑤	3. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習③	11. 対位法実作①	4. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習④	12. 対位法実作②	5. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習⑤	13. 対位法実作③	6. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習①	14. まとめ①	7. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習②	15. まとめ②	8. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習③	
1. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習①	9. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習④																					
2. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習②	10. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習⑤																					
3. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習③	11. 対位法実作①																					
4. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習④	12. 対位法実作②																					
5. 移勢（シンコペーション）による対旋律の実習⑤	13. 対位法実作③																					
6. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習①	14. まとめ①																					
7. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習②	15. まとめ②																					
8. 華麗（自由）対位法による対旋律の実習③																						

教科 No.	6a056	授業科目	管弦楽法 1		単位数	1単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期
履修条件	先修科目：和声法初級 1・2		履修学年・専攻等	作曲を除く全専攻 2 回生以上		
<p style="font-size: 2em; margin-top: 100px;">今年度休講</p>						

教科 No.	6a057	授業科目	管弦楽法 2		単位数	1単位
担当教員	(休講)				開講学期	後期
履修条件	先修科目：管弦楽法 1		履修学年・専攻等	作曲を除く全専攻 2 回生以上		
<p style="font-size: 2em; margin-top: 100px;">今年度休講</p>						

教科 No.	6a058	授業科目	作曲法（編曲法を含む）		単位数	1単位																
担当教員	中村典子（音楽棟 2 1 3）				開講学期	前期・後期																
履修条件	先修科目：和声法初級 1・2 備考必読		履修学年・専攻等	作曲・指揮を除く全専攻 2 回生以上																		
<p>【授業目標】 楽曲のいくつかの類型を習得することによって理解し、楽曲制作の工程を身に付ける。</p> <p>【授業概要】 実際の楽曲の観察をもとに、小規模のまとまりから徐々に規模を拡大してゆき、最終的に、複合三部形式、変奏曲形式、ソナタ形式などの楽曲を実作、完成させる。試験時では、制限時間（90分）内に楽曲を完成させることを体験する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 制作過程の説明</td> <td>9. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 A（変奏曲形式）</td> </tr> <tr> <td>2. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（一部形式）</td> <td>10. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 B（フーガ形式等対位法楽曲）</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（三部形式あるいは歌曲制作）</td> <td>11. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 C（音列による楽曲創作）</td> </tr> <tr> <td>4. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（複合三部形式）</td> <td>12. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 D（音響グラフィックによる創作）</td> </tr> <tr> <td>5. 楽曲の観察、及び第2回提出に向けての楽曲制作 2（複合三部形式）</td> <td>13. 作品完成（ソナタあるいはA-Eから選択）と作品演奏会準備</td> </tr> <tr> <td>6. 楽曲の観察、及び第2回提出に向けての楽曲制作 1（ロンド形式等舞曲の形式）</td> <td>14. 作品演奏会（提出作品発表）</td> </tr> <tr> <td>7. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（ソナタ形式）</td> <td>15. 試験（制限時間内での楽曲の完成）（試験時に観察済参考資料集の提出）</td> </tr> <tr> <td>8. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 2（ソナタ形式）</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席 30%，提出物（全4回）30%，作品演奏発表 10%，試験 30%を合計し、評価する。</p> <p>【履修上の注意】 段階を追って全4回の作品提出があり、これなくしては単位の修得は困難である。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 参考資料集を授業の1回目に配布する。</p> <p>※備考 前期（a）と後期（b）のどちらかを選択。</p> <p>aとbのクラスの人数が、ほぼ同規模とならない場合は、選択したクラスからの移動を依頼する場合がある。</p>							1. 制作過程の説明	9. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 A（変奏曲形式）	2. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（一部形式）	10. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 B（フーガ形式等対位法楽曲）	3. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（三部形式あるいは歌曲制作）	11. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 C（音列による楽曲創作）	4. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（複合三部形式）	12. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 D（音響グラフィックによる創作）	5. 楽曲の観察、及び第2回提出に向けての楽曲制作 2（複合三部形式）	13. 作品完成（ソナタあるいはA-Eから選択）と作品演奏会準備	6. 楽曲の観察、及び第2回提出に向けての楽曲制作 1（ロンド形式等舞曲の形式）	14. 作品演奏会（提出作品発表）	7. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（ソナタ形式）	15. 試験（制限時間内での楽曲の完成）（試験時に観察済参考資料集の提出）	8. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 2（ソナタ形式）	
1. 制作過程の説明	9. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 A（変奏曲形式）																					
2. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（一部形式）	10. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 B（フーガ形式等対位法楽曲）																					
3. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（三部形式あるいは歌曲制作）	11. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 C（音列による楽曲創作）																					
4. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（複合三部形式）	12. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 D（音響グラフィックによる創作）																					
5. 楽曲の観察、及び第2回提出に向けての楽曲制作 2（複合三部形式）	13. 作品完成（ソナタあるいはA-Eから選択）と作品演奏会準備																					
6. 楽曲の観察、及び第2回提出に向けての楽曲制作 1（ロンド形式等舞曲の形式）	14. 作品演奏会（提出作品発表）																					
7. 楽曲の観察、及び第1回提出に向けての楽曲制作 1（ソナタ形式）	15. 試験（制限時間内での楽曲の完成）（試験時に観察済参考資料集の提出）																					
8. 楽曲の観察、及び第3回提出に向けての楽曲制作 2（ソナタ形式）																						

教科 No.	6a059	授業科目	音楽音声学 1		単位数	2単位
担当教員	（休講）				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2 回生以上		
<h1 style="font-size: 2em;">今年度休講</h1>						

教科 No.	6a060	授業科目	舞台芸術論 1：舞台は面白い！	単位数	2単位																
担当教員	金子根古（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 舞台芸術とはどういうモノ？</p> <p>【授業概要】 大学講堂を例に劇場、舞台の構造、意味、ルールを学びながら、舞台のことを深く考えてみる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 今さらですが、自己紹介・・・自己を語るということ</td> <td>9. 舞台に吊ってあるもの～バトン、照明、幕</td> </tr> <tr> <td>2. なぜ電車の中で携帯電話はアカンのか～空間と時間の共有が舞台芸術の本質</td> <td>10. 音楽家の危険管理～演奏中に地震が起きたら</td> </tr> <tr> <td>3. 舞台芸術とはなにか～フィギュアスケートはなぜ舞台芸術ではないのか？</td> <td>11. 空間を感じる～ホールとは空間の大きさや形</td> </tr> <tr> <td>4. 舞台とはどういうもの？～ストリートは舞台か？</td> <td>12. 響きの実験～講堂の響きを改めて体験する</td> </tr> <tr> <td>5. 大学講堂はコンサートも、オペラもできる？～オペラハウスとコンサートホール</td> <td>13. 調光室探検～照明というもの</td> </tr> <tr> <td>6. 劇場にはいろんな形がある</td> <td>14. 平台と箱馬</td> </tr> <tr> <td>7. 講堂の秘密～ロビー、客席、反響板、舞台～スイッチの場所から、？な設計まで</td> <td>15. 空間を感じる～シーリングに上がる</td> </tr> <tr> <td>8. 劇場という宇宙・舞台という世界～なぜ司会はいつも下手に立つのか</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポート、出席</p> <p>【履修上の注意】 わたしたちはなぜ音楽をしているのか？という疑問を持ってみよう。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】</p>						1. 今さらですが、自己紹介・・・自己を語るということ	9. 舞台に吊ってあるもの～バトン、照明、幕	2. なぜ電車の中で携帯電話はアカンのか～空間と時間の共有が舞台芸術の本質	10. 音楽家の危険管理～演奏中に地震が起きたら	3. 舞台芸術とはなにか～フィギュアスケートはなぜ舞台芸術ではないのか？	11. 空間を感じる～ホールとは空間の大きさや形	4. 舞台とはどういうもの？～ストリートは舞台か？	12. 響きの実験～講堂の響きを改めて体験する	5. 大学講堂はコンサートも、オペラもできる？～オペラハウスとコンサートホール	13. 調光室探検～照明というもの	6. 劇場にはいろんな形がある	14. 平台と箱馬	7. 講堂の秘密～ロビー、客席、反響板、舞台～スイッチの場所から、？な設計まで	15. 空間を感じる～シーリングに上がる	8. 劇場という宇宙・舞台という世界～なぜ司会はいつも下手に立つのか	
1. 今さらですが、自己紹介・・・自己を語るということ	9. 舞台に吊ってあるもの～バトン、照明、幕																				
2. なぜ電車の中で携帯電話はアカンのか～空間と時間の共有が舞台芸術の本質	10. 音楽家の危険管理～演奏中に地震が起きたら																				
3. 舞台芸術とはなにか～フィギュアスケートはなぜ舞台芸術ではないのか？	11. 空間を感じる～ホールとは空間の大きさや形																				
4. 舞台とはどういうもの？～ストリートは舞台か？	12. 響きの実験～講堂の響きを改めて体験する																				
5. 大学講堂はコンサートも、オペラもできる？～オペラハウスとコンサートホール	13. 調光室探検～照明というもの																				
6. 劇場にはいろんな形がある	14. 平台と箱馬																				
7. 講堂の秘密～ロビー、客席、反響板、舞台～スイッチの場所から、？な設計まで	15. 空間を感じる～シーリングに上がる																				
8. 劇場という宇宙・舞台という世界～なぜ司会はいつも下手に立つのか																					

教科 No.	6a061	授業科目	舞台芸術論 2：さまざまな舞台芸術を垣間見る	単位数	2単位																
担当教員	金子根古（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	舞台芸術論 1		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 舞台芸術の歴史をたどりながら、さまざまな舞台芸術を学ぶ。</p> <p>【授業概要】 映像を中心に舞台芸術の歴史を学ぶ。公演制作の方法を学ぶ。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 2500年前の作品、ギリシャ悲劇「オイディプス王」をDVDで見る 1</td> <td>9. 英語で歌われる日本のオペラ「源氏物語（英語版）」をDVDで観る 2</td> </tr> <tr> <td>2. 2500年前の作品、ギリシャ悲劇「オイディプス王」をDVDで見る 2</td> <td>10. こんなに退屈なものがどうして600年も...能「鉄輪」をDVDで観る</td> </tr> <tr> <td>3. 古典劇の面白さ。古代劇場の意味。</td> <td>11. ブラックユーモアな新作狂言「鏡冠者」（野村萬斎）をDVDで観る</td> </tr> <tr> <td>4. オペラの不幸な時代～映画「カストラート」をDVD見る 1</td> <td>12. 野田秀樹が演出した歌舞伎「研辰の討たれ」（中村勘三郎）をDVDで観る</td> </tr> <tr> <td>5. オペラの不幸な時代～映画「カストラート」をDVD見る 2</td> <td>13. 日本の文化予算ってどうなの？・・・芸術の行く末を考える</td> </tr> <tr> <td>6. シェイクスピアの時代の演劇と劇場 映画「恋に落ちたシェイクスピア」を観る 1</td> <td>14. 上演までの道筋～制作ということ ホールのシステムと舞台芸術のお値段</td> </tr> <tr> <td>7. シェイクスピアの時代の演劇と劇場 映画「恋に落ちたシェイクスピア」を観る 2</td> <td>15. 企画を立てる～レポート課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>8. 英語で歌われる日本のオペラ「源氏物語（英語版）」をDVDで観る 1</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポート、出席</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】</p>						1. 2500年前の作品、ギリシャ悲劇「オイディプス王」をDVDで見る 1	9. 英語で歌われる日本のオペラ「源氏物語（英語版）」をDVDで観る 2	2. 2500年前の作品、ギリシャ悲劇「オイディプス王」をDVDで見る 2	10. こんなに退屈なものがどうして600年も...能「鉄輪」をDVDで観る	3. 古典劇の面白さ。古代劇場の意味。	11. ブラックユーモアな新作狂言「鏡冠者」（野村萬斎）をDVDで観る	4. オペラの不幸な時代～映画「カストラート」をDVD見る 1	12. 野田秀樹が演出した歌舞伎「研辰の討たれ」（中村勘三郎）をDVDで観る	5. オペラの不幸な時代～映画「カストラート」をDVD見る 2	13. 日本の文化予算ってどうなの？・・・芸術の行く末を考える	6. シェイクスピアの時代の演劇と劇場 映画「恋に落ちたシェイクスピア」を観る 1	14. 上演までの道筋～制作ということ ホールのシステムと舞台芸術のお値段	7. シェイクスピアの時代の演劇と劇場 映画「恋に落ちたシェイクスピア」を観る 2	15. 企画を立てる～レポート課題に取り組む	8. 英語で歌われる日本のオペラ「源氏物語（英語版）」をDVDで観る 1	
1. 2500年前の作品、ギリシャ悲劇「オイディプス王」をDVDで見る 1	9. 英語で歌われる日本のオペラ「源氏物語（英語版）」をDVDで観る 2																				
2. 2500年前の作品、ギリシャ悲劇「オイディプス王」をDVDで見る 2	10. こんなに退屈なものがどうして600年も...能「鉄輪」をDVDで観る																				
3. 古典劇の面白さ。古代劇場の意味。	11. ブラックユーモアな新作狂言「鏡冠者」（野村萬斎）をDVDで観る																				
4. オペラの不幸な時代～映画「カストラート」をDVD見る 1	12. 野田秀樹が演出した歌舞伎「研辰の討たれ」（中村勘三郎）をDVDで観る																				
5. オペラの不幸な時代～映画「カストラート」をDVD見る 2	13. 日本の文化予算ってどうなの？・・・芸術の行く末を考える																				
6. シェイクスピアの時代の演劇と劇場 映画「恋に落ちたシェイクスピア」を観る 1	14. 上演までの道筋～制作ということ ホールのシステムと舞台芸術のお値段																				
7. シェイクスピアの時代の演劇と劇場 映画「恋に落ちたシェイクスピア」を観る 2	15. 企画を立てる～レポート課題に取り組む																				
8. 英語で歌われる日本のオペラ「源氏物語（英語版）」をDVDで観る 1																					

教科 No.	6a062	授業科目	オペラ総論 1		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上		
<p>今年度休講</p>						

教科 No.	6a063	授業科目	オペラ総論 2		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	後期
履修条件	先修科目：オペラ総論 1		履修学年・専攻等	2回生以上		
<p>今年度休講</p>						

教科 No.	6a064	授業科目	鍵盤楽器総論 I	単位数	2単位
担当教員	(休講)			開講学期	前期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上（ピアノ専攻は1回生以上）	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	6a065	授業科目	鍵盤楽器総論 II	単位数	2単位
担当教員	(休講)			開講学期	後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上（ピアノ専攻は1回生以上）	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	6a066	授業科目	現代音楽論		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	全専攻2回生以上		
<p>今年度休講</p>						

教科 No.	6a067	授業科目	民族音楽学 I a : ロマニ (ジプシー) 音楽の魅力さをさぐる (1)	単位数	2単位																
担当教員	山田陽一 (音楽研究室3)			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 ヨーロッパにおけるロマニ (ロマ/ジプシー) 音楽文化のありかたを探る。</p> <p>【授業概要】 ロマニの移動の歴史やロマニ音楽の成立過程を概観したうえで、トルコ半島、バルカン半島、東ヨーロッパのロマニ音楽の事例をとりあげ、映像資料を多用しながら、その政治的・社会的・文化的背景や音楽的特質について論じる。また、ロマニ音楽とワールド・ミュージックとの関係についても言及する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ロマニとは誰か?</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. ロマニの移動の歴史～北インドからトルコ半島へ</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. " ～トルコ半島からヨーロッパへ</td> <td>11. タラフ・ドウ・ハイドゥークスの音楽</td> </tr> <tr> <td>4. "Gypsy Music into Europe" (ドキュメンタリー映画)</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. ロマニ音楽の成立過程</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. ロビー・ラカトシュの音楽</td> </tr> <tr> <td>7. 『ラッチョ・ドローム』(ドキュメンタリー映画)</td> <td>15. エスマ/ヴァイエラ・ピラの音楽</td> </tr> <tr> <td>8. ファンファーレ・チオカリアの音楽</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況とレポートによる。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加すること。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 授業中に指示する。</p> <p style="text-align: center;">★民族音楽学 I a と I b は、どちらも履修することができる。</p>						1. ロマニとは誰か?	9. "	2. ロマニの移動の歴史～北インドからトルコ半島へ	10. "	3. " ～トルコ半島からヨーロッパへ	11. タラフ・ドウ・ハイドゥークスの音楽	4. "Gypsy Music into Europe" (ドキュメンタリー映画)	12. "	5. ロマニ音楽の成立過程	13. "	6. "	14. ロビー・ラカトシュの音楽	7. 『ラッチョ・ドローム』(ドキュメンタリー映画)	15. エスマ/ヴァイエラ・ピラの音楽	8. ファンファーレ・チオカリアの音楽	
1. ロマニとは誰か?	9. "																				
2. ロマニの移動の歴史～北インドからトルコ半島へ	10. "																				
3. " ～トルコ半島からヨーロッパへ	11. タラフ・ドウ・ハイドゥークスの音楽																				
4. "Gypsy Music into Europe" (ドキュメンタリー映画)	12. "																				
5. ロマニ音楽の成立過程	13. "																				
6. "	14. ロビー・ラカトシュの音楽																				
7. 『ラッチョ・ドローム』(ドキュメンタリー映画)	15. エスマ/ヴァイエラ・ピラの音楽																				
8. ファンファーレ・チオカリアの音楽																					

教科 No.	6a068	授業科目	民族音楽学 II a : ロマニ (ジプシー) 音楽の魅力さをさぐる (2)	単位数	2単位																
担当教員	山田陽一 (音楽研究室3)			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 ヨーロッパにおけるロマニ (ロマ/ジプシー) 音楽文化のありかたを探る。</p> <p>【授業概要】 西ヨーロッパのロマニ音楽の事例をとりあげ、映像資料を多用しながら、その音楽的・文化的特徴について論じるとともに、ロマニ音楽とワールド・ミュージックとの関係についても言及する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. スウィング・マヌーシュの成立過程</td> <td>9. 『僕のスウィング』(映画)</td> </tr> <tr> <td>2. ジャンゴ・ラインハルトの音楽</td> <td>10. ジプシー・キングスの音楽</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. フラメンコの成立過程</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. 『ベンゴ』(映画)</td> </tr> <tr> <td>5. スウィング・マヌーシュ (ビレリ・ラグレーン)</td> <td>13. 『パッション・フラメンカ』(TVドキュメンタリー)</td> </tr> <tr> <td>6. " (チャボロ・シュミット)</td> <td>14. 『ジプシー・キャラバン』(ドキュメンタリー映画)</td> </tr> <tr> <td>7. " (ストーケロ・ローゼンバーク)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. " (アンジェロ・ドウバレ)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況とレポートによる。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加すること。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 授業中に指示する。</p> <p style="text-align: center;">★民族音楽学 II a と II b は、どちらも履修することができる。</p>						1. スウィング・マヌーシュの成立過程	9. 『僕のスウィング』(映画)	2. ジャンゴ・ラインハルトの音楽	10. ジプシー・キングスの音楽	3. "	11. フラメンコの成立過程	4. "	12. 『ベンゴ』(映画)	5. スウィング・マヌーシュ (ビレリ・ラグレーン)	13. 『パッション・フラメンカ』(TVドキュメンタリー)	6. " (チャボロ・シュミット)	14. 『ジプシー・キャラバン』(ドキュメンタリー映画)	7. " (ストーケロ・ローゼンバーク)	15. 総括	8. " (アンジェロ・ドウバレ)	
1. スウィング・マヌーシュの成立過程	9. 『僕のスウィング』(映画)																				
2. ジャンゴ・ラインハルトの音楽	10. ジプシー・キングスの音楽																				
3. "	11. フラメンコの成立過程																				
4. "	12. 『ベンゴ』(映画)																				
5. スウィング・マヌーシュ (ビレリ・ラグレーン)	13. 『パッション・フラメンカ』(TVドキュメンタリー)																				
6. " (チャボロ・シュミット)	14. 『ジプシー・キャラバン』(ドキュメンタリー映画)																				
7. " (ストーケロ・ローゼンバーク)	15. 総括																				
8. " (アンジェロ・ドウバレ)																					

教科 No.	6a069	授業科目	民族音楽学 I b		単位数	2単位																
担当教員	藤田隆則（日本伝統音楽研究センター）				開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																		
<p>【授業目標】 諸民族の音楽にふれて、文化の多様性をみる観点をいくつか獲得する</p> <p>【授業概要】 「民族音楽」という種類の「音楽」があるのではない。「民族音楽学」という「ものの見方」「考え方」が存在するだけなのだ。このことを理解してもらうために、この授業では、アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパの諸民族の伝統音楽をとりあげ、その音楽テキストに実際に接しながら、様々な課題（まねすることも含む）に取り組むことにしたい。音や音楽の周辺的なことがらに目をむけたり、音を発するプロセスに目をむけることによって、音楽についての見方を拡大することが、授業の目的である。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 民族音楽学の視点－異文化に目をむける</td> <td>9. 民族音楽学の視点－比較と対照</td> </tr> <tr> <td>2. 民族音楽学の視点－自然に目をむける</td> <td>10. 民族音楽学の視点－民族と民俗</td> </tr> <tr> <td>3. 民族音楽学の視点－社会に目をむける</td> <td>11. 民族音楽学の視点－哲学と歴史</td> </tr> <tr> <td>4. 民族音楽学の視点－言語に目をむける</td> <td>12. 民族音楽学の視点－詩学と美学</td> </tr> <tr> <td>5. 民族音楽学の視点－思想に目をむける</td> <td>13. 民族音楽学の視点－記述と説明</td> </tr> <tr> <td>6. 民族音楽学の視点－経済に目をむける</td> <td>14. 民族音楽学の視点－まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 民族音楽学の視点－テキストとコンテキスト</td> <td>15. 民族音楽学の視点－予備</td> </tr> <tr> <td>8. 民族音楽学の視点－観察から記録へ</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席 2 割，レポート 8 割</p> <p>【履修上の注意】 実際に手をうごかしたり，声をだしてみたりすることがあります。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】</p> <p style="text-align: center;">★民族音楽学 I a と I b は，どちらも履修することができる。</p>							1. 民族音楽学の視点－異文化に目をむける	9. 民族音楽学の視点－比較と対照	2. 民族音楽学の視点－自然に目をむける	10. 民族音楽学の視点－民族と民俗	3. 民族音楽学の視点－社会に目をむける	11. 民族音楽学の視点－哲学と歴史	4. 民族音楽学の視点－言語に目をむける	12. 民族音楽学の視点－詩学と美学	5. 民族音楽学の視点－思想に目をむける	13. 民族音楽学の視点－記述と説明	6. 民族音楽学の視点－経済に目をむける	14. 民族音楽学の視点－まとめ	7. 民族音楽学の視点－テキストとコンテキスト	15. 民族音楽学の視点－予備	8. 民族音楽学の視点－観察から記録へ	
1. 民族音楽学の視点－異文化に目をむける	9. 民族音楽学の視点－比較と対照																					
2. 民族音楽学の視点－自然に目をむける	10. 民族音楽学の視点－民族と民俗																					
3. 民族音楽学の視点－社会に目をむける	11. 民族音楽学の視点－哲学と歴史																					
4. 民族音楽学の視点－言語に目をむける	12. 民族音楽学の視点－詩学と美学																					
5. 民族音楽学の視点－思想に目をむける	13. 民族音楽学の視点－記述と説明																					
6. 民族音楽学の視点－経済に目をむける	14. 民族音楽学の視点－まとめ																					
7. 民族音楽学の視点－テキストとコンテキスト	15. 民族音楽学の視点－予備																					
8. 民族音楽学の視点－観察から記録へ																						

教科 No.	6a070	授業科目	民族音楽学 II b		単位数	2単位																
担当教員	田井竜一（日本伝統音楽研究センター）				開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																		
<p>【授業目標】 授業概要参照</p> <p>【授業概要】 〔諸民族の音楽芸能〕 人類がはぐくんできた、多様で豊かな音楽芸能が、自然・文化・社会的脈絡の中で、どのように存在し、いかなる意味をもっているのかを明らかにする。それにより、人間にとって音楽芸能とは何なのかについて考察をおこなう。同時に、音楽芸能の動態的側面にも、注目する様にしたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 西アジアの音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>2. 東アジアの音楽芸能 (1)</td> <td>10. アフリカの音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>3. 東アジアの音楽芸能 (2)</td> <td>11. ヨーロッパの音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>4. 東南アジアの音楽芸能 (1)</td> <td>12. アメリカ大陸の音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>5. 東南アジアの音楽芸能 (2)</td> <td>13. オセアニアの音楽芸能 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 南アジアの音楽芸能 (1)</td> <td>14. オセアニアの音楽芸能 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 南アジアの音楽芸能 (2)</td> <td>15. 伝統と現代</td> </tr> <tr> <td>8. 中央・北アジアの音楽芸能</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験（論述式）と、最低 1 回の提出を義務づけるイベント参加レポートを総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 受講生には、講義を単に受動的にうけるのではなく、積極的に諸民族の音楽芸能にふれる機会をつくっていくことをのぞみたい。</p> <p>【教科書】 柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽―諸民族の伝統音楽からポップスまで』音楽之友社 2，200 円。</p> <p>【参考書等】 講義時に適宜紹介する。</p> <p style="text-align: center;">※備考 視聴覚資料（ビデオディスク・ビデオテープ・CD・オーディオテープ等）を駆使し、常に具体的な事例にもとづきながら講義をすすめる。</p> <p style="text-align: center;">★民族音楽学 II a と II b は，どちらも履修することができる。</p>							1. イントロダクション	9. 西アジアの音楽芸能	2. 東アジアの音楽芸能 (1)	10. アフリカの音楽芸能	3. 東アジアの音楽芸能 (2)	11. ヨーロッパの音楽芸能	4. 東南アジアの音楽芸能 (1)	12. アメリカ大陸の音楽芸能	5. 東南アジアの音楽芸能 (2)	13. オセアニアの音楽芸能 (1)	6. 南アジアの音楽芸能 (1)	14. オセアニアの音楽芸能 (2)	7. 南アジアの音楽芸能 (2)	15. 伝統と現代	8. 中央・北アジアの音楽芸能	
1. イントロダクション	9. 西アジアの音楽芸能																					
2. 東アジアの音楽芸能 (1)	10. アフリカの音楽芸能																					
3. 東アジアの音楽芸能 (2)	11. ヨーロッパの音楽芸能																					
4. 東南アジアの音楽芸能 (1)	12. アメリカ大陸の音楽芸能																					
5. 東南アジアの音楽芸能 (2)	13. オセアニアの音楽芸能 (1)																					
6. 南アジアの音楽芸能 (1)	14. オセアニアの音楽芸能 (2)																					
7. 南アジアの音楽芸能 (2)	15. 伝統と現代																					
8. 中央・北アジアの音楽芸能																						

教科 No.	6a071	授業科目	日本音楽史Ⅰ：日本音楽の概要・特色と雅楽を学ぶ	単位数	2単位																
担当教員	山田智恵子（日本伝統音楽研究センター）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 日本音楽の歴史と理論を学ぶ（1）。</p> <p>【授業概要】 日本音楽は、西洋音楽とは異なるさまざまな特質を持っている。この授業では、まず日本音楽の音階・リズム・記譜法など理論面の理解を踏まえた上で、日本音楽の成立から古代後期までを歴史的に辿る。学校現場で共通鑑賞教材として取り上げられている音楽芸能を中心に、その音楽的特徴を述べていく。→備考1</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 日本音楽とは何か</td> <td>9. 古代成立の音楽その3 雅楽「管弦」</td> </tr> <tr> <td>2. 日本音楽の通史的概観</td> <td>10. 古代成立の音楽その4 雅楽「舞楽」</td> </tr> <tr> <td>3. 日本音楽の音階</td> <td>11. 古代成立の音楽その5 雅楽歌い物</td> </tr> <tr> <td>4. 日本音楽のリズム</td> <td>12. 古代成立の音楽その6 雅楽の後世への影響</td> </tr> <tr> <td>5. 日本音楽の楽式と記譜法</td> <td>13. 古代成立の音楽その7 声明</td> </tr> <tr> <td>6. 日本の楽器概観</td> <td>14. 試験</td> </tr> <tr> <td>7. 古代成立の音楽その1 正倉院の楽器。東大寺お水取りの時空。</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. 古代成立の音楽その2 雅楽の成立と日本化。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席 25・レポート 25・学期末試験 50 パーセント</p> <p>【履修上の注意】 視聴覚資料を多用するので、出席重視。日本伝統芸能のイベント・演奏会などを生で鑑賞しレポート作成することを義務づけます。</p> <p>【教科書】 月溪恒子『日本音楽との出会い 日本音楽の歴史と理論』（2010年 東京堂出版）</p> <p>【参考書等】 なし（授業中に関連参考書を指示します）</p> <p>※備考 私たち日本人は、どのような音楽芸能を育んできたのか、それはどのような音楽性や特徴をもっているかを理解することを目的とする。</p> <p>日本音楽史Ⅱと一部重複</p>						1. 日本音楽とは何か	9. 古代成立の音楽その3 雅楽「管弦」	2. 日本音楽の通史的概観	10. 古代成立の音楽その4 雅楽「舞楽」	3. 日本音楽の音階	11. 古代成立の音楽その5 雅楽歌い物	4. 日本音楽のリズム	12. 古代成立の音楽その6 雅楽の後世への影響	5. 日本音楽の楽式と記譜法	13. 古代成立の音楽その7 声明	6. 日本の楽器概観	14. 試験	7. 古代成立の音楽その1 正倉院の楽器。東大寺お水取りの時空。	15. 予備	8. 古代成立の音楽その2 雅楽の成立と日本化。	
1. 日本音楽とは何か	9. 古代成立の音楽その3 雅楽「管弦」																				
2. 日本音楽の通史的概観	10. 古代成立の音楽その4 雅楽「舞楽」																				
3. 日本音楽の音階	11. 古代成立の音楽その5 雅楽歌い物																				
4. 日本音楽のリズム	12. 古代成立の音楽その6 雅楽の後世への影響																				
5. 日本音楽の楽式と記譜法	13. 古代成立の音楽その7 声明																				
6. 日本の楽器概観	14. 試験																				
7. 古代成立の音楽その1 正倉院の楽器。東大寺お水取りの時空。	15. 予備																				
8. 古代成立の音楽その2 雅楽の成立と日本化。																					

教科 No.	6a072	授業科目	日本音楽史Ⅱ：中世・近世の音楽芸能	単位数	2単位																
担当教員	山田智恵子（日本伝統音楽研究センター）			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 日本音楽の歴史と理論を学ぶ（2）。</p> <p>【授業概要】 中世成立の音楽芸能から近世成立の音楽芸能までを歴史的に扱う。中世成立の芸能としては、平家と能を、近世成立の音楽は室内楽（三曲）と劇場音楽（歌舞伎と文楽）にわけて述べる。中世以降、日本では様々な語り物が発達したが、語り物とは何かについても論じる。→備考</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 中世成立の音楽その1 平家の成立。語り物とは何か。</td> <td>9. 近世成立の音楽その5 劇場音楽：歌舞伎の成立。</td> </tr> <tr> <td>2. 中世成立の音楽その2 平家の音楽。</td> <td>10. 近世成立の音楽その6 劇場音楽：歌舞伎の音の記号。</td> </tr> <tr> <td>3. 中世成立の音楽その3 能の成立。祭りとしての「翁」。</td> <td>11. 近世成立の音楽その7 劇場音楽：人形浄瑠璃の成立。</td> </tr> <tr> <td>4. 中世成立の音楽その4 能の音楽。</td> <td>12. 近世成立の音楽その8 劇場音楽：人形浄瑠璃文楽の表現。</td> </tr> <tr> <td>5. 近世成立の音楽その1 三味線の伝来とキリシタン音楽</td> <td>13. 近代・現代の音楽 西洋音楽の受容と日本音楽への影響</td> </tr> <tr> <td>6. 近世成立の音楽その2 室内楽：地歌。</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 近世成立の音楽その3 室内楽：箏曲。</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 近世成立の音楽その4 室内楽：尺八楽。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席 25・レポート 25・学期末試験 50 パーセント</p> <p>【履修上の注意】 視聴覚資料を多用するので出席重視。生で日本伝統芸能を鑑賞し、レポートを作成する課題を義務づける。</p> <p>【教科書】 月溪恒子『日本音楽との出会い 日本音楽の歴史と理論』（2010年 東京堂出版）</p> <p>【参考書等】 なし（授業中に関連参考書を指示します）</p> <p>※備考 また、能・歌舞伎・文楽はそれぞれ、音楽と文学・演劇。美術などがむすびついた総合芸術であることを理解できるようにする。</p> <p>日本音楽史Ⅰを履修していることが望ましい。</p>						1. 中世成立の音楽その1 平家の成立。語り物とは何か。	9. 近世成立の音楽その5 劇場音楽：歌舞伎の成立。	2. 中世成立の音楽その2 平家の音楽。	10. 近世成立の音楽その6 劇場音楽：歌舞伎の音の記号。	3. 中世成立の音楽その3 能の成立。祭りとしての「翁」。	11. 近世成立の音楽その7 劇場音楽：人形浄瑠璃の成立。	4. 中世成立の音楽その4 能の音楽。	12. 近世成立の音楽その8 劇場音楽：人形浄瑠璃文楽の表現。	5. 近世成立の音楽その1 三味線の伝来とキリシタン音楽	13. 近代・現代の音楽 西洋音楽の受容と日本音楽への影響	6. 近世成立の音楽その2 室内楽：地歌。	14. まとめ	7. 近世成立の音楽その3 室内楽：箏曲。	15. 試験	8. 近世成立の音楽その4 室内楽：尺八楽。	
1. 中世成立の音楽その1 平家の成立。語り物とは何か。	9. 近世成立の音楽その5 劇場音楽：歌舞伎の成立。																				
2. 中世成立の音楽その2 平家の音楽。	10. 近世成立の音楽その6 劇場音楽：歌舞伎の音の記号。																				
3. 中世成立の音楽その3 能の成立。祭りとしての「翁」。	11. 近世成立の音楽その7 劇場音楽：人形浄瑠璃の成立。																				
4. 中世成立の音楽その4 能の音楽。	12. 近世成立の音楽その8 劇場音楽：人形浄瑠璃文楽の表現。																				
5. 近世成立の音楽その1 三味線の伝来とキリシタン音楽	13. 近代・現代の音楽 西洋音楽の受容と日本音楽への影響																				
6. 近世成立の音楽その2 室内楽：地歌。	14. まとめ																				
7. 近世成立の音楽その3 室内楽：箏曲。	15. 試験																				
8. 近世成立の音楽その4 室内楽：尺八楽。																					

教科 No.	6a073	授業科目	音楽生理学	単位数	2単位																
担当教員	酒井直隆（非常勤）			開講学期	集中（前期）																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 音楽の演奏を、医学と工学という全く異なる視点から解説し、練習のし過ぎによる手の障害の原因と予防法についても述べる。</p> <p>【授業概要】 芸術と科学とは本来相容れないものだが、頭で考えたことを手を使って楽器を操作し表現するプロセスを考えた場合、演奏する手の側の医学的要素と、器械としての楽器側の工学的要素が深くかかわっている。医学・工学双方の知識によって音楽家自身が視野を広げることにより、合理的な奏法を探究することが百年前から行われていたことも触れる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人間の手の構造と機能</td> <td>9. 右脳と左脳—左利きの人と右利きの人では脳の形自体が違う</td> </tr> <tr> <td>2. ショパン、リストら歴史的ピアニストの手の検討</td> <td>10. ピアニストと病氣—田中希代子、マレイ・ペライア、オスカー・ピーターソンの場合</td> </tr> <tr> <td>3. 楽器としてのピアノ機構の歴史の変遷</td> <td>11. 身体障害と音楽—サリドマイド奇形を克服してプロのバリトン歌手になった実例</td> </tr> <tr> <td>4. ピアノ奏法理論史—ピアニストの手の涉外とかかわり</td> <td>12. 弦楽器、管楽器、打楽器奏者における障害</td> </tr> <tr> <td>5. ピアニストの手の障害の実態と原因</td> <td>13. パレエ・ダンサーの障害—もうひとつの演奏家集団の、次元の異なる障害</td> </tr> <tr> <td>6. コンピュータによるピアニストの手の運動解析</td> <td>14. 楽器は変わるか？—人間工学から見た未来の楽器の数々</td> </tr> <tr> <td>7. 常識からかけ離れた、ホロビッツの謎の奏法とその解析</td> <td>15. これからの人たちへ—音大生も科学的知識で視野を広げてほしい。</td> </tr> <tr> <td>8. 早期教育と晩学—18歳でピアノを始めたピアニストの存在</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポートにより評価</p> <p>【履修上の注意】 出席重視</p> <p>【教科書】 酒井直隆著 『ピアニストの手・障害とピアノ奏法』（音楽之友社）</p> <p>【参考書等】</p>						1. 人間の手の構造と機能	9. 右脳と左脳—左利きの人と右利きの人では脳の形自体が違う	2. ショパン、リストら歴史的ピアニストの手の検討	10. ピアニストと病氣—田中希代子、マレイ・ペライア、オスカー・ピーターソンの場合	3. 楽器としてのピアノ機構の歴史の変遷	11. 身体障害と音楽—サリドマイド奇形を克服してプロのバリトン歌手になった実例	4. ピアノ奏法理論史—ピアニストの手の涉外とかかわり	12. 弦楽器、管楽器、打楽器奏者における障害	5. ピアニストの手の障害の実態と原因	13. パレエ・ダンサーの障害—もうひとつの演奏家集団の、次元の異なる障害	6. コンピュータによるピアニストの手の運動解析	14. 楽器は変わるか？—人間工学から見た未来の楽器の数々	7. 常識からかけ離れた、ホロビッツの謎の奏法とその解析	15. これからの人たちへ—音大生も科学的知識で視野を広げてほしい。	8. 早期教育と晩学—18歳でピアノを始めたピアニストの存在	
1. 人間の手の構造と機能	9. 右脳と左脳—左利きの人と右利きの人では脳の形自体が違う																				
2. ショパン、リストら歴史的ピアニストの手の検討	10. ピアニストと病氣—田中希代子、マレイ・ペライア、オスカー・ピーターソンの場合																				
3. 楽器としてのピアノ機構の歴史の変遷	11. 身体障害と音楽—サリドマイド奇形を克服してプロのバリトン歌手になった実例																				
4. ピアノ奏法理論史—ピアニストの手の涉外とかかわり	12. 弦楽器、管楽器、打楽器奏者における障害																				
5. ピアニストの手の障害の実態と原因	13. パレエ・ダンサーの障害—もうひとつの演奏家集団の、次元の異なる障害																				
6. コンピュータによるピアニストの手の運動解析	14. 楽器は変わるか？—人間工学から見た未来の楽器の数々																				
7. 常識からかけ離れた、ホロビッツの謎の奏法とその解析	15. これからの人たちへ—音大生も科学的知識で視野を広げてほしい。																				
8. 早期教育と晩学—18歳でピアノを始めたピアニストの存在																					

教科 No.	6a074	授業科目	ピアノ演奏法特殊講義a：ピアノ奏法の基礎・スクリャービン後期ソナタ	単位数	a,b,c合わせて2単位
担当教員	高橋麻子（非常勤）			開講学期	集中
履修条件	なし		履修学年・専攻等	ピアノ専攻 1回生以上	
<p>【授業目標】 基礎的技法を分類し、それぞれを意識的に実践。それらを組み合わせ、各自のレパートリー研究への応用を目指す。また後半はスクリャービン後期ソナタについて解説する。</p> <p>【授業概要】 分類した奏法により譜例を実践。各々、奏法を予め説明した上で実践、その様子を全員で観察する。また、ピアニスト達が遺した思想や言葉に触れつつ、演奏者の役割を考察する。後半はスクリャービン後期ソナタを演奏しながら解説をする。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2日間の内容は次のとおり ピアノ演奏の歴史を概観、演奏者の役割について考察する。 ピアノ演奏の基礎的技法をDVDを参照しながら説明する。 譜例を一人ひとり実践。それぞれの手元をスクリーンに映し出し全員で観察する。 分類し実践した基礎的技法を意識的に組み合わせて作品を実現させていく。 スクリャービン後期作品とその神秘主義について演奏しながら分析に基づき説明する。 <p>【評価方法】 出席状況、参加態度、レポート等を見て評価する。</p> <p>【履修上の注意】 全員が実践するため、割り当てられた課題を準備しておくこと。</p> <p>【教科書】 なし。譜例プリントを配布。</p> <p>【参考書等】 なし。 来年度休講</p>					

教科 No.	6a075	授業科目	ピアノ演奏法特殊講義 b	単位数	a,b,c 合わせて2単位
担当教員	北野裕司（非常勤）			開講学期	集中（後期）
履修条件	なし		履修学年・専攻等	ピアノ専攻 1 回生以上	
<p>【授業目標】 「ロシア・ピアノイズム」をテーマとする。ロシア・ピアノ奏法やロシア（旧ソ連を含む）の音楽文化について、一定の理解を得る。</p> <p>【授業概要】 ピアノ演奏芸術における主要な流派のひとつである、ロシアンスクールに焦点をあてる。様々なピアノ音楽を紹介しつつ、ロシア・ピアノ奏法の概要、ピアニスト達の群像、ロシア音楽界の事情等について解説してゆく。また映像や写真などを通じて、ロシアの風土・社会・文化全般についての理解を促す。</p> <p>【授業内容】 1. 集中講義 4 回の内容は次のとおり 2. ロシア・ピアノ奏法について 音・技術についての考察 3. ロシア・ピアノ奏法について 音・技術についての考察 4. ロシア音楽文化の流れ ロシアのピアニスト・作曲家の紹介 5. ロシアのピアニスト・作曲家の紹介 現地の音楽教育事情も含めて</p> <p>【評価方法】 出席状況及びレポートによって評価する。レポートは授業内容を踏まえたものとする。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加しましょう。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>来年度休講</p>					

教科 No.	6a076	授業科目	ピアノ演奏法特殊講義 c	単位数	a,b,c 合わせて2単位
担当教員	小石かつら（非常勤）			開講学期	集中（前期）
履修条件	なし		履修学年・専攻等	ピアノ専攻 1 回生以上	
<p>【授業目標】 ピアノ演奏技術について語られてきた歴史・背景を解説し、実際の演奏、日々の練習にいかす。</p> <p>【授業概要】 ピアノ演奏技術について、ピアニスト、ジョルジ・シャンドール（1912 ブダペスト -2005 ニューヨーク）の書き残した『シャンドールピアノ教本』を中心に考察する。演奏・研究・翻訳という自らの経験を交えつつ、CD や DVD の鑑賞、およびピアノを弾いての実践も取り入れる。</p> <p>【授業内容】 1. 集中講義 2 日間の内容は次のとおり 2. ピアニストの系譜：ピアニストの誕生、楽器の歴史等 3. ピアノ演奏に関する実践の理論化と教則本の歴史、シャンドールの紹介 4. 『シャンドールピアノ教本』を読む① 5. 『シャンドールピアノ教本』を読む②</p> <p>【評価方法】 出席状況、参加の様子によって評価する。</p> <p>【履修上の注意】 あらかじめ教科書を読み、疑問点を洗い出しておくこと。</p> <p>【教科書】 ジョルジ・シャンドール『シャンドールピアノ教本—身体・音・表現』春秋社 2940 円</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>来年度休講</p>					